

## 2023 サポーターミーティング 議事録

主催：株式会社横浜フリエスポーツクラブ

会場：ONEST 横浜西口ビル AP 横浜

日時：2023年1月14日（土）10:30～12:00

参加人数：51名

横浜FC出席者：北澤、杉尾、笠井、門馬、内田、新井（司会）、長嶋、佐藤

内容：

- ① クラブスタッフメンバー紹介
- ② HAMABLUE スタジアム説明
- ③ 質疑応答
- ④ 開幕に向けた検討施策
- ⑤ グループディスカッション

テーマ：HAMABLUE スタジアムを作るためのアイデア出し

※グループに分かれてディスカッションを行いました。内容については議事には記載はございません。

本議事録は1月14日付け時点のものとなります。

### ■ 横浜FC 北澤よりご挨拶とミーティングの趣旨説明

本日は、雨が降っている中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

早速、HAMABLUE スタジアムのご説明に移らせていただきます。

クラブがこれまでホームページにてお知らせさせていただきました、スタジアムの「オフィシャル応援エリア」や「掲出物の事前申請制」について、実施する経緯と、クラブの想いをご説明させていただきます。

12月に2022クラブメンバーの方を対象に行いましたHAMABLUE SESSIONでご説明した内容と重なる部分はありますが、お話しさせていただきます。

横浜FCはJ1リーグの定着、そしてタイトルを獲得できるクラブを目指していますが、皆さんもご存じの通り、簡単なことではないと思っています。

過去の横浜FCの実績からもそれが読み取れる通り、クラブは今回が3回目のJ1昇格となりました。また、2回の降格を経験しています。そしてこの降格というのはすべて、実質1年での降格です。2020シーズンに関しては、1年目はコロナの影響もあり降格という制度がありませんでしたが、2年目、降格の制度が戻ったあとすぐに降格してしまいました。

これは、厳しいですが、クラブがまだJ1に定着できるクラブでは無かったということだと考えています。

今回は3度目のチャレンジとなりますが、クラブとしてまずはJ1に定着することを成し遂げなければならないと思っております。

チームの強化や選手の強化という面はもちろん大事ですが、チーム面の強化だけではJ1定着は難しいため、いい選手を獲得するためにはクラブの事業が拡大していかなければならない。新しくご支援いただけるパートナーを増やすことやチケットやグッズ売上を伸ばしていくといった事業面はチームの強化に繋がっています。

その両輪を一緒に回していくことでクラブを成長させていかなければ、このJ1定着は難しいと思っています。

過去のJリーグクラブの歴史を見ても、これまでタイトルを獲得したクラブの中の最低売上規模を見ると、まだ横浜FCはこれに達していないのが事実で、また、事業面の強化においては、ホームスタジアムにおけるスタジアムの雰囲気や応援の様子を見て、新しくご来場いただける方が、「次も三ツ沢に行ってみよう」と思っていいただけるようにしていくことが大事だと感じています。

現状、横浜 FC のホームゲームにおける 2022 シーズンの来場者数の平均は 5,088 名でした。

クラブリリースなどご覧になられた方もいらっしゃるかと思いますが、ONODERA GROUP では、新スタジアム建設に向けて動いています。これは、新スタジアムを作ることが目的ではなく、このスタジアムに常に満員のお客様にご来場いただき、選手たちを後押しするという環境を作ってこそ、J1 定着、タイトル獲得へ繋がっていくことだと考えています。

UD オリヴェイレンセ（ポルトガル 2 部）のチームの経営権を取得したことも同様です。

今年でクラブ設立 25 周年を迎えますが、これまでのクラブの歴史を大切にしながら、これからの未来を皆さまと一緒に作っていきたい、このような思いから HAMABLUE スタジアムという形で発表させていただきました。

ニッパツ三ツ沢球技場は 15,000 名を収容できるスタジアムです。現在の 5,088 名から 1 万人を増やすということは並大抵のことではないと思います。

これから、新しくスタジアムにご来場いただける方々が、横浜 FC をもっと応援したい、あのスタジアムで応援することが面白い、次も来たいと思ってもらえるようなスタジアムを作っていかなければならないと思っています。

これらの理由から、ゴール裏の中心エリアを「オフィシャル応援エリア」と設定しました。

オフィシャル応援エリアがスタジアムの応援の中心地となり、そのエリアからゴール裏全体、そしてメインスタンドやバックスタンドを巻き込んで応援やスタジアムの雰囲気拡大していきたいと考えています。

スタジアムに来場した子どもたちが「オフィシャル応援エリア」を見たときに「自分もゴール裏でずっと一緒に応援したい！」と憧れを持って、次も来たいと思ってもらえるような場所にしたいと思っています。

（※2019 年の最終戦の J1 昇格を決めた愛媛 FC 戦の様子を投影）

この試合にご来場された方も多くいらっしゃると思いますが、スタジアム全体が HAMABLUE に染まって一体感のあるスタジアムを作ることができたと考えています。

これは、2019 シーズンの愛媛 FC 戦でできたことであって、その後、常に継続できていることではありません。

チームが強ければと考える方もいらっしゃるかとと思います。

それは、多少あるかもしれませんが、平均 5,088 名というのが現状です。

ニッパツ三ツ沢球技場は臨場感もあり、選手との距離が非常に近いスタジアムですので、他のスタジアムよりも選手に直接応援が届きますし、一体感を醸し出せる素晴らしいスタジアムだと思っています。

クラブスタッフも試行錯誤をしながら仕事をしていますが、何のために行っているかと考えた時に、満員の HAMABLUE スタジアムを作る過程ということイメージするようにしています。自分がやろうとしていることは、そこに繋がっているのか、立ち返って行動するようにしています。それをクラブを応援していただいている皆さんと同じ想いで作り上げていきたいと思っています。

このようなスタジアムを作っていく中で、今まで応援の先導をしていたゴール裏の応援団体の代表者の方々にクラブの想いをお伝えしております。その中で、現在は正直なところを申し上げますと、団体としては一緒にやっという段階には至っておりません。

（※1/14 時点）

常に満員の HAMABLUE スタジアムを作っていくというクラブの考えに賛同していただいたうえで、一緒に HAMABLUE スタジアムを作っていくという目線合わせがないままでは、先に進めないとも思っています。そのため、クラブはこれからも協議を進め、クラブの想いはお伝えし続けます。

開幕戦まで 1 ヶ月ほどになりましたので、時間がありません。2023 シーズンの大事な 1 試合が始まろうとしています。

ゴール裏団体との協議の最中ではありますが、クラブはこの開幕戦に向けて、準備を進めていかなければいけない時期に入っておりますので、本日サポーターミーティングに来ていただいているメンバーの皆さまの中で、応援の中心として、もっとクラブと話をしていきたい、例えば、大旗を振って横浜 FC を応援してみたいとか、太鼓で先導してみたいとか、そのような思いをお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひクラブスタッフにお声掛けいただければと思います。

新しい未来に向かって今まで以上のことをさらにスピード感を持ちながら進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

## ■ 横浜 FC 内田智也よりチームの近況とクラブへの想いについて

皆さんこんにちは。本日は、ご参加いただきありがとうございます。

また日頃より、チーム、クラブへ温かいご支援ご声援、サポートいただき、本当にありがとうございます。

まもなくシーズンが始まります。長くて厳しいシーズンになると思いますが、皆さんと一緒に目標達成できるように、チーム一丸となって頑張っていきたいと思えます。

先ほど北澤から色々な話がありましたが、私のところではアイスブレイクではないですが、最初にトップチームの始動から昨日までのキャンプの様子をお伝えいたします。

チームは、1月6日に新体制発表を迎え、1月8日から昨日13日まで宮崎市内で一次キャンプを行いました。やはり、新加入選手が多いということで、最初は既存の選手と新加入選手、お互いに様子を探り合うというキャンプならではのいつもの光景でしたが、少しずつコミュニケーションを図ることで、チームとしてまとまりつつある様子がうかがえました。

この後、二次キャンプで日南市に移動し、練習試合などを通してチームの成熟を図っていくという期間になっています。昨日13日、今シーズン初めてのトレーニングマッチを行い、宮崎産業経営大学との試合で、9対0で勝利しました。9点先に取りましたが、昨年の流れですと、この後追いつかれるのではないかと多少の心配もありましたが、選手たちはJ1仕様にしっかり仕上げてきてくれていて、最後まで無失点、今シーズン初勝利をあげることができました。練習試合ですが、このような積み重ねがやはりシーズンにはとても大事ですので、良いスタートを切れたのではないかと考えております。

新加入選手も増えて、チームは総勢40名程度の選手がいる中で、各ポジションのポジション争いというのもすごく激しくなってくると思えます。

練習ひとつにしても、選手はやはり目の前の練習試合や公式戦などに向けて100%の努力をして激しく100%のプレーを発揮できるように続けています。この先もその姿勢をもつことには変わりません。

ただ、選手が100%の力を出しプレーしたとしても、これから戦っていくJ1の舞台、さらにその上を目指したときに、勝てるかどうかは分からない、その中でやはり+αのことを生み出していかなければならないと思えます。

その+αは何かを考えたときに、私はやはりスタジアムの雰囲気であったり、皆さんと一緒に作り上げる応援だと思っております。私自身、今でも覚えているのは、2007年の横浜ダービーです。あの時のスタジアムの一体感や雰囲気と言うのは、その雰囲気にのまれてしまい逆に記憶がないくらいでした。それほどの雰囲気を作っていたいただき、私自身も大きな後押しをしていただいたことで、しっかり勝利に繋げることができたというのを今でも強く憶えています。

選手にとって力強い応援、勇気になる応援というのは何かを考えた時に、やはりいいプレーに対しては素直に手拍子やチャントで声援を送って欲しいですし、たとえ失敗したとしてもチャレンジした姿であったりプレーに対しての応援や手拍子をいただきたい。あとは、チームとして苦しい時間帯であったり劣勢の時に応援していただけることで大きな後押しになったことがこれまでも何度もありましたし、それは選手たちが一番感じていると思えます。

横浜FCがJ1定着に向けて、新しいことにチャレンジしている。もちろん良い部分は残しつつも、やはりJ1に定着していくために私はゼロから生まれ変わる覚悟を持ってやっていかなければいけないシーズンだと思って、ゼロからイチを生むことは、すごく大変だと思いますが、このクラブの成り立ちやDNAを考えたときに、ゼロからイチを生むことはこのクラブなら絶対にできると思えます。

そのようにゼロからチームを作り上げてこの25年間続けてきたと思うので、皆さんとクラブは必ずできると思えます。

このようなミーティングを通してポジティブな話し合いを持ち、より良いスタジアムを皆さんと一緒に作っていきたく思います。

最後になりますが、四方田監督のコンセプトは、「全力プレー、一体感、エンジョイ」です。これは私たちの試合運営や、スタジアムづくりにも反映できるものだとも思っておりますので、この想いをチームだけではなく、クラブスタッフもこれを通してスタジアムを作っていくことを一緒に頑張っていきたいと思えます。

## ■ 質疑応答（感想含む）

～参加者～

北澤さんが青色を強調する話をしていましたが、青いチームが多い中で、青いチームの差別化が必要だと思いました。このチームの特徴は何かを考えたとき、さきほど内田さんがゼロからイチを作り上げたと話していた言葉が良いなと思い、そういった視点からチームをどのように盛り上げていけたらいいかを考えて話しをしていけたらいいと思いました。

～横浜 FC 北澤～

ぜひ、この後のグループディスカッションでも皆さまのご意見お聞きできればと思います。

～参加者～

北澤さんの話をお聞きし、一体感を持ちゴール裏を青にしていくことは本当に良いことだと思いました。

また、ゴール裏のサポーターの人達との協議があまりうまくいっていないと聞きました。

自分は今勤めている会社の人に横浜 FC の話をよくしたり、スタジアムに一度来てくださいといった話をするのですが、その時によく言われるのが、横浜 FC サポーターのことを調べると、あまり評判が良くないということをよく言われたりします。

家族にもそのことを話した時に、横浜 FC のことは好きだけど、横浜 FC サポーターのことは好きじゃないということを言われます。話しをすればみんな良い人達なのは自分も良く知っています。応援の仕方を丁寧に教えてくれたり、一緒にスタジアムを盛り上げようとみんな必死になっています。でもその必死さが周りから見ると、なんか違うなとなっている現状だと思います。自分もあまり品の良いサポーターじゃないと思っています。

横浜 FC は、フリーゲルズという伝統のある立派なチームから新しいチームへとその意思を受け継いでいるチームだと思っています。フリーゲルズが掴み取りたかった栄光を我々が掴み取らないといけないと思いますので、そういう意味でもゴール裏だけではなくメインスタンドもバックスタンドも全部横浜 FC 一色に染めて、横浜のチームはマリノスだけじゃないんだということを周りに見せていきたいと思っています。

横浜では、ベイスターズとマリノスばかりで横浜 FC のことはあまり知られていないため、知名度のアップとかを横浜だけではなくて関東や全国に知らしめていくためにも、さきほど北澤さんが話をしていたような一体感のあるスタジアムというものは本当に必要だと思います。今回の会に参加して本当に良かったと思っています。

～横浜 FC 北澤～

クラブも本当にそのような思いを持っていますし、例えば、新しく子どもたちがスタジアムに来た時に「僕たち、私たちもあそこのエリアに入っていきたい」「あのゴール裏に憧れている」そのように思ってもらえるようにしていくことができれば、もっと三ツ沢に来ていただける方を増やすことができると考えております。

そのために今回このような形でサポーターミーティングを開催させていただきました。

まずはクラブと一緒に未来に向けた目線合わせをさせていただきながら、一緒に取り組んでいきたいという話をしていますし、その覚悟を持ってやっていきたいと思っています。

～参加者～

今進めておられるゴール裏でオフィシャル応援エリアを設けるというのは正しいと思います。私設応援団がゴール裏で「座っているやつは来るな」とかそういったことを言われるということを色々聞いたりしてきました。これまでの Jリーグではそうやってきたのだと思いますが、現在は時代遅れではないかと考えています。色々なクラブで地域性に応じてサポーターの応援を行っておられるかと思いますが、横浜では、半公設の応援団を設けて、クラブがイニシアチブを持ってサポーターと応援を作っていくことが良いと思います。ファン・サポーターが参加するような仕組みや枠組みをクラブが作る形でやっていくのが良いと感じました。

～横浜 FC 北澤～

新しいご意見でしたので、今後の参考とさせていただきたいと思います。

ただ、これを進めるためにはクラブだけではできない部分もありますので、想いを持っていていただいているサポーターの皆さまと一緒に進めていくということが大事になってくると考えております。

後ほどのグループワークでもまたアイデアを頂戴できればと思います。

～参加者～

横浜 FC には長くかかわってきて、ゴール裏で大旗を振っています。私が思う横浜 FC というクラブは、最近の動向を見ていますと、ビッグクラブへの道歩んでいるのかなという印象です。今回のサポーターの応援の仕方についての変更ですが、大きな分岐点があったと感じています。

一番気になっているのは、応援の自主性というものをクラブがどう考えているのかということところです。やはり、熱をもって一体感を出すというのは、クラブが HAMABLUE で染めるということも良いと思うのですが、サポーターが当事者意識を持って応援していかないと熱が上がってこないと思います。ただ、正解は何かというのは、このミーティングで話したくらいでは結論は出ないと思います。先ほど、北澤さんからサポーター団体との協議は現状も行っていると伺いました。そこに関しては、急がずに今後も継続して行っていく、時間かけてでも自分たちの応援を作り上げていくというスタンスを大切にさせていただきたいと考えておりますので、要望いたします。

～横浜 FC 北澤～

応援の自主性、当事者意識に関しましては、仰る通りだと思います。

本日のミーティングでも皆様との話し合いを通していろいろなお意見を頂戴できればと思います。

～参加者～

応援グッズでハリセンを配っているクラブが多いと思うのですが、横浜 FC はそのようなものは無いのでしょうか。

～横浜 FC 北澤～

色々な応援スタイルがあると思いますが、ぜひその様なアイデアをこのあとのグループワークでご意見頂戴できればと思います。

～参加者～

フリーゲルスの時代から応援をしています。フリーゲルスの時代にバックスタンドで観戦していたのですが、私の子ども達はいつもゴール裏に遊びに行き、ゴール裏の大人の人達と最前列で応援して楽しんでいました。子どもたちは、今も私と一緒にスタジアムに行っていますが、今はゴール裏には行けないという感じになっています。

数年前に引退試合を実施した際に、フリーゲルス時代の応援の方々が来て当時の応援を行っていて本当に楽しかったです。そのような応援をまたできないのかなというのは個人的な疑問です。ずっと横浜 FC を応援してきましたが、これまでのゴール裏の応援が変化してきた経緯を教えてください。

～横浜 FC 北澤～

私は当時クラブにはおりませんでしたが、これまでの応援の経緯については少し話を聞いていることもあります。詳しく正確にお話しすることはできないため、申し訳ございませんがご理解いただければと思います。

今の横浜 FC は、その時の応援というより、新しくその当時と同じように子どもたちが楽しめるような雰囲気を作りたいと考えています。

これから考えていきたいことは、応援をどのようにしたら新しい人たちに楽しんでいただき応援に参加していただくことができるか、

また次のご来場につなげていけるかということを中心に話し合っていきたいと思いますので、このあとのグループワークでもお話しただければと思います。

～参加者～

先ほど、最終ゴールは HAMABLUE で染まったスタジアムということでイメージをお話しいただいたと思うのですが、その過程で、観客数を増やすことと、HAMABLUE に染めること、のどちらを優先しているのかというのを確認したいです。また、その施策などはまだクラブでは何も決まっていなくて、このあとのグループワークで出た意見を採用して作っていくのかというのもご質問させていただきたいです。

私としましては、観客数を増やしたいと個人的に思っています。

～横浜 FC 北澤～

オフィシャル応援エリアを中心として、そこからスタジアム全体に広げていくイメージで考えています。新しく来場された方々がスタジアムで何を見て、また来たいかと感じるかを考えたときに、招待を多くして来ていただいてもその試合だけで終わってしまうということがあります。突然来場者数を増やすというのは、これまでの経験からも本当に難しいことだと感じています。オフィシャル応援エリアが中心となって、新しい方々にもあのエリアで応援してみたい、ゴール裏に行ってみたい、そう思っていたらいいスタジアムにしていきたいです。

成功例はないのですが、少しずつの積み重ねでスタジアムに来てもらったことをきっかけに、スタジアムの雰囲気を感じてもらえるようにしていきたい。その中心がオフィシャル応援エリアになるようにして、来場していただく方を増やしていきたいです。

開幕に向けた施策に関しては、来場いただいた皆さまに向けてのプレゼントや HAMABLUE のグッズ展開を準備しておりますし、オフィシャル応援エリアの運用をサポートする体制の準備を行っております。

感染症対策のガイドラインも緩和されてきていますので、ここ数年できなかった施策で、スタジアムの雰囲気をつくっていきたく思っております。

～参加者～

ゴール裏の団体との協議も進行中とのことですが、すごく難航している印象を持っています。私は、サポーター団体の方々に対してこれまでの経緯も含めとてもリスペクトしている部分もあります。私は、チャントで歌詞が分からないところがあったりするので、以前、サポーター団体の方に、新しい方々にも分かりやすいチャントにしたらどうかと直談判したことがありましたが、ダメと言われたことがありましたので、今回の話し合いもとても大変だと推測しています。

ただ、とても素直に話を聞いていただいた印象はありますので、私たちの様なサポーターと団体の方々との話し合いの機会があれば、クラブとの協議のスピード感も上がってくるのではないかと思います。

～横浜 FC 北澤～

クラブとしても応援のチャントなどをもっと多くの人に歌えるようにしていけたらと思っています。

応援団体の方々をリスペクトして、彼らの応援スタイルを否定する訳ではなく、しっかりと目指す方向の目線合わせをしたうえで、一緒に進んでいきたいと思っています。ただし、開幕戦まで時間がありませんので、それでも賛同いただけない場合は、開幕戦に向けての準備をクラブは進めていかなければならない時期だと考えております。

皆さま、貴重なご意見ありがとうございました。

グループディスカッションで皆さまにいただいたご意見、アイデアにつきましては HAMABLUE スタジアムを作っていく中で、今後の参考として進めさせていただきます。